

ON!

Old but New

だいまるゆう

伝統を残しながら、変わり続ける街大丸有

大手町・丸の内・有楽町の

街づくりを発信する情報誌

だいまるゆう

大丸有の昨日・今日・そして明日

明治後期の丸ノ内・馬場先通り。右手が三菱一号館と二号館で、その先に皇居を望む。

2010 AUTUMN

021

この街の在り方を協議していく「大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会」が発足して20有余年が経ちました。その間、大丸有(大手町・丸の内・有楽町)地区は、ビジネス一辺倒のエリアから、多くの方々を訪れ、集い、時を過ごす街へと変貌してきました。今号ではこの変化の歴史を概観してみます。なお、巻末にはアンケートがありますので、ぜひご協力ください。

1890年～1922年

富国強兵・殖産興業、強いニッポンへ

この街の創世期。
丸の内ビジネスセンターの歴史は政府からの土地払い下げにはじまる。



1890年、政府からの払い下げに応じ、岩崎彌之助氏はいまの神田三崎町および大手町、丸の内、有楽町までの約35万m²もの土地を買取りました。これが、日本の近代都市づくりのはじまりといえます。彌之助氏はこの地を地震に耐える堅牢な一大オフィス街にしようと計画。1894年には日本で最初の近代的オフィスビルといえる三菱一号館が完成しました。その後、次々とレンガ造りの建物が軒を並び、ガス灯が建ち、銀杏の街路樹が植えられています。その独特の景観はまるで外国のようだったため、この界隈は「一丁ロンドン」と呼ばれるようになります。そして、1914



▲完成間近の東京駅(写真上)と、整然と区画された大正時代の丸の内仲通り(写真下)。

年には東京駅が誕生。この街は名実ともに首都を代表する存在になっていくのです。

1923年～1944年

関東大震災のダメージから立ち直る

ショッピングモール併設の丸ビルがオープン。関東大震災で街は多大な被害を被るが、昭和初期には歌に唄われるほど女性が目立つビジネス街へ成長。

1923年2月には、この地区のランドマークともいえる丸ビルがオープン。地下1階～地上2階までは商店街として一般に開放する、ショッピングモール形式を日本で最初に導入したのがこのビルです。上層階には弁護士・建築士などの入居も相次ぎ、一気に文化の香りが漂うようになります。しかし、同年9月1日に関東大震災が発生し、街は大きなダメージを受けます。この災害を乗り越え、1929年には250台の自動車を収容できる駐車場ビル「丸の内ガラヂビルディング」が完成するなど、この地は世界一級のビジネス街へと成長していきます。また、「恋の丸ビルあの窓あたり、泣いて文かく人もある・・・」(東京行進曲)と歌に唄われるほど働く女性の進出も目立ち、女性たちの憧れの街として多くの歌や小説の舞台にもなっていました。

パンチカードの穿孔作業をする丸の内OL。▼



「一丁ロンドン」に続き、大正時代になると行幸通り沿いに白亜のアメリカ式ビルが建ち並び「一丁ニューヨーク」といわれるようになる。▶



▲関東大震災直前の丸ビル玄関の様子。この頃になると、洋装の人の姿が多い。



1945年～1987年

戦後の混乱から復興し、高度成長時代へ

戦後は、ビルが軒並み進駐軍に接収される。昭和30年代からは高度成長期に入りオフィスビルラッシュがはじまる。

戦中は著しい物資不足から丸の内もその開発が止まり、戦後も連合国総司令部に建物が軒並み接収されるなど低迷期を迎えます。しかし、1950年代になり戦後処理も一段落すると、日本は高度成長期に入り、空前のオフィスビルラッシュを迎えます。こうしたなか「丸ノ内総合改造計画」が打ち出され、昭和30年代前半から40年代前半にかけて老朽化が進んだ赤煉瓦街の建物に代わり、近代的なコンクリート造りの31m高層ビルに建て替えられていきます。また、1954年には地下鉄団丸ノ内線が開通し、1960年には行幸通り地下に520台収容の「丸の内駐車場」も完成します。さらに1964年には、日本の戦後復興を象徴する東京オリンピックを迎え、日本橋川上空には首都高都心環状線が開通。車社会の到来を予期するとともに、都市景観も大きく変わっていくのです。



▲昭和40年代の仲通り。「丸ノ内総合改造計画」により高さ31m(100尺)に揃えられたビルのスカイラインが美しい。



画像提供…サンケイビル

▲昭和30年当時の大手町界隈。手前の白いビルが同年3月に竣工した東京サンケイビル本館。

▲戦後復興の象徴ともいえる東京オリンピックは、高速道路の整備など街づくりにも大きな影響を与えた。

画像提供：読売新聞社

▼三菱一号館の落成祝いの様子。当時の建物は13mの3階建てが基本だった。



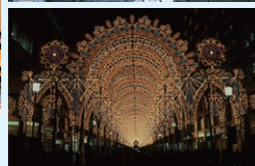
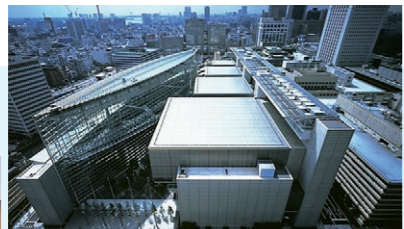
1988年～2001年

バブル期からバブル崩壊、そして心の時代へ

この街の第二創世期。
大手町・丸の内・有楽町を一体とした
共通のルールに則った、
新しい街づくりがスタートする。

1980年代後半には日本の高度成長は頂点を極めバブル期に突入、「お局さま」「おやじギャル」「みつぐン」「アッシー」といった言葉が流行します。一方で、外資系企業を中心にオフィス需要が活発化してくるのもこの頃です。これに対して、この街の共通ルールをつくりそれに基づく地域再開発を進めていこうという機運が高まってきます。その結果設立されたのが、「大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会」(1988年)です。こうしたなか、1996年には東京国際フォーラムが竣工し、大丸有地区の文化拠点として機能していきます。また、仲通りを中心に海外ブランドショップも増え、この街が単なるビジネス街ではなく、女性たちがアフターファイブを楽しむ街へと変貌していきます。こうした新しい時代の幕開けを象徴するように、1999年には「東京ミレナリオ」が開催され、東京の新しい祝祭として注目されます。

▼1988年7月、共通のルールで街づくりを進めるために、大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会設立総会



▲1996年に竣工した東京国際フォーラム。
◀2001年の東京ミレナリオ(光の彫刻)。
©Valerio Festi/I&F Inc.

2002年～2009年

21世紀を迎え、“癒し”が時代のキーワードに

ミレニアムを経て街にアートや文化が溢れ、「エコ」をテーマにした新たな街づくりが進む。

21世紀を迎えるとこの街の再開発は本格化し、2002年竣工の丸ビルや東京サンケイビルをはじめ、三菱信託銀行本店ビル、丸の内中央ビル、丸の内トラストタワー(2003年)、丸の内オアゾ、丸の内MY PLAZA(2004年)、東京ビルディング(2005年)など、現在の大丸有を形成する主だったビルが続々と誕生します。一方で、街の交流機能の強化や都市観光のための魅力づくりが謳われ、ソフト面の充実も図られていきます。いまではすっかりお馴染みになったゴールデンウイークに開催されるクラシック音楽の祭典



▲東京駅から見ると、丸ビルと新丸ビルの低層部分はかつて定められた31mのスカイラインを継承していることわかる。



▲エコで楽しいペロタクシーも大丸有地区で約20台運行している。



▲スイス発祥といわれる「カウパレード」も丸の内で行われた。



◀大手町、丸の内、有楽町地区を結ぶ、無料巡回バス「丸の内シャトル」と、皇居を一周するスカイバス。

「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」や夏の名物ジャズコンサート「東京JAZZ」、カウパレード、エコキッズ探検隊、丸の内朝大学など音楽やアート、カルチャー面の各種イベントが開催されるようになったのもこの時期です。また、交通インフラもさらに充実し、丸の内シャトルバスやスカイバス、ペロタクシーなどが運行されるようになります。さらに、2007年に新丸ビルが竣工すると、その10階に丸の内エリアの環境戦略拠点として「エコツェリア」が誕生。ここを中心に、夏の打ち水や、冬のイルミネーションをグリーン電力でまかなうキャンペーンなど、さまざまなエコ活動に地域をあげて取り組んでいくことになります。



▲サビアタワーや丸の内トラストタワーなど八重洲口の開発も進んでいる。



▲すっかりお馴染みになった「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」。



▼子供たちが楽しめるイベントも各種行われている(写真はエコキッズ探検隊)。



▲この街を代表する環境イベント「打ち水プロジェクト」。

2010年～

テクノロジーと自然との融和

歴史と文化を蘇らせ
過去と未来をつなぐ持続可能な街へ。

2009年に丸の内パークビル・三菱一号館が完成し、今年4月には三菱一号館美術館がオープンしました。その一方で、2009年に千代田区は「環境モデル都市」の指定を受け、区内のCO₂排出量を2020年までに1990年比で25%削減する中期目標を掲げ、地域では丸の内パークビルの屋上に約60kWの太陽光発電パネルを設置するなど、今後10年に向け街をあげて環境問題への取り組みを推進しています。2011年末にはパレスホテルのリニューアルが完成し、2012年には東京駅赤煉瓦駅舎が完成予定です。最新テクノロジーと自然・歴史・文化との融合を図るなかで、大丸有地区はいつも明日のさらにその先を見つめた街づくりを心がけていきます。

19世紀末の建物を復元して今年4月にオープンした「三菱一号館美術館」。



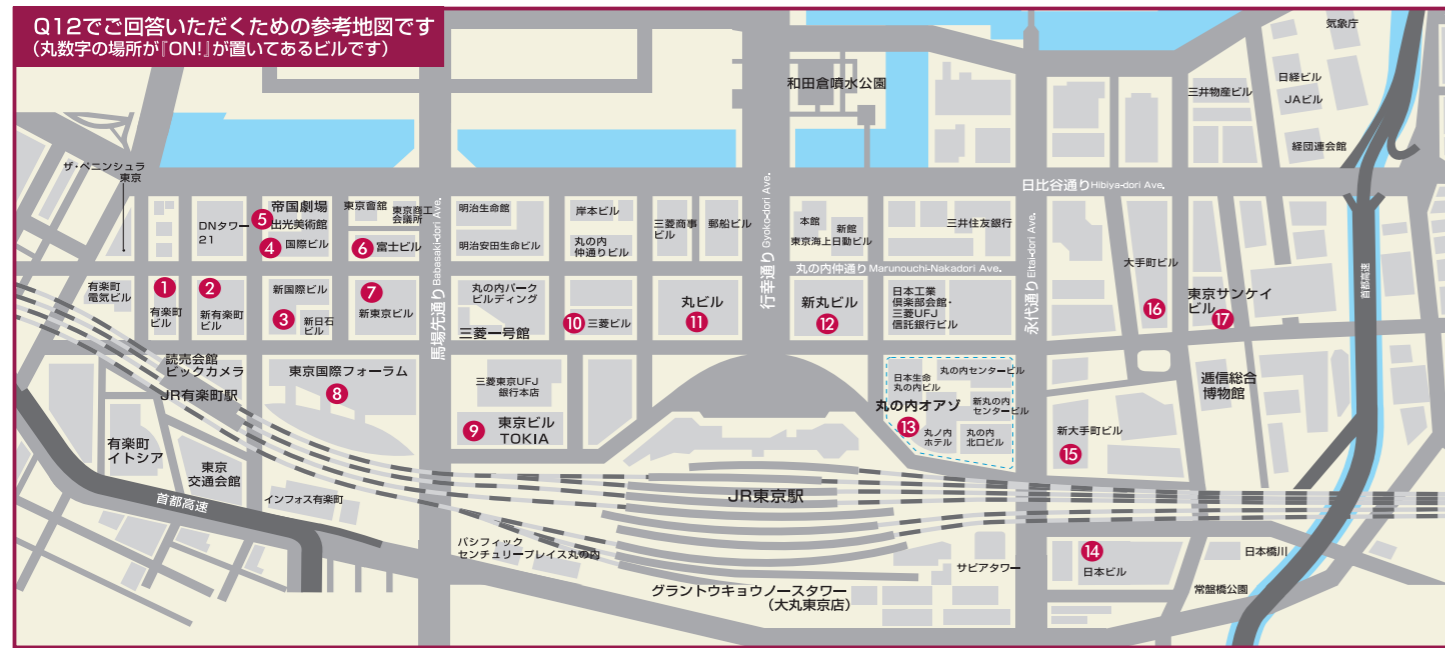
◀2012年完成予定の東京駅丸の内駅舎は、1914年に創建された当時の姿に復元される。

アンケートのお願い

大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会(以下、大丸有協議会)は、日本経済の中心であるこの地域において、千代田区の街づくり方針に沿った一体的な再開発を行うことを目的に、1988年に設立されました。現在、会員68者、オブザーバー14者、特別会員10者を有し、さまざまな角度から持続可能な新たな都市空間の創世に取り組んでいます。大丸有協議会では、こうした取り組みを多くの方々に知っていただくために、広報誌『ON!』を年3回(3月初旬、7月初旬、11月初旬)発行しています。

そしてこのたび、『ON!』をより充実させるため、アンケートを実施することとなりました。この冊子の読者の皆様の率直なご意見をお聞かせいただきたく、右記アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、同じアンケートを大丸有協議会のホームページ(<http://www.lares.dti.ne.jp/~tc/>)でも実施しておりますので、そちらからもお答えいただけます。多くの方々のご協力をお願い申し上げます。

大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会 PR・情報化検討会 事務局



『ON!』とは…



歴史ある街であるとともに、近年の国際化・高度情報化時代において最先端の国際都市としても機能している大手町・丸の内・有楽町(大丸有)地区の街づくりを発信する情報誌です。2004年の創刊以来、『Old but New-伝統を残しながら変わり続ける街』というコンセプトのもと、音楽、建築、子供、食事、乗り物等々さまざまなテーマに取り組んでいます。

<仕様>A5判・8頁 年3回(3月初旬、7月初旬、11月初旬)発行

●アンケート質問事項 (回答は右のハガキにお書きください)

Q1 「大丸有(大手町・丸の内・有楽町の略称)という言葉を知っていましたか?

- ①はい ②いいえ

読者の皆様について教えてください。

Q2 年齢 ①10代 ②20代前半 ③20代後半 ④30代前半 ⑤30代後半

- ⑥40代前半 ⑦40代後半 ⑧50代 ⑨60代～

Q3 性別 ①男 ②女

Q4 職業 ①学生 ②会社員(公務員含) ③自営業 ④主婦 ⑤フリーター ⑥その他

Q5 勤務地 ①大手町・丸の内・有楽町地区内 ②23区内 ③その他

Q6 居住地 ①23区内 ②23区以外の都内 ③その他

Q7 来訪目的 ①仕事 ②買い物 ③食事 ④観光 ⑤その他

現在の『ON!』について教えてください。

Q8 ページ数 ①多い ②適切 ③少ない

Q9 発行頻度(現在年3回発行) ①多い ②適切 ③少ない

Q10 『ON!』を読んだ経験 ①初めて ②毎号読んでいる ③複数回

Q11 『ON!』を通じてどのような情報が知りたいですか?(複数回答可)

- ①歴史 ②建築物 ③環境対策 ④インフラ(駅・交通) ⑤知られざるスポット
⑥グルメ ⑦イベント ⑧ファッション ⑨アート ⑩音楽 ⑪自己研鑽 ⑫その他

Q12 『ON!』の取得場所

■ラック(各ビルの1FあるいはB1Fを中心に設置)

- ①有楽町ビル ②新有楽町ビル ③新国際ビル ④国際ビル ⑤出光美術館
⑥富士ビル ⑦新東京ビル(丸の内カフェ) ⑧東京国際フォーラム ⑨東京ビル
⑩三菱ビル ⑪丸ビル ⑫新丸ビル ⑬丸の内オアゾ ⑭日本ビル
⑮新大手町ビル ⑯大手町ビル ⑰東京サンケイビル ⑱丸の内シャトル(バス)
⑲東京都インフォメーション(東京都庁内)

*ビル所在地がわからない場合は左の地図をご参照ください。

■上記以外の場所(例:オフィスの回覧)

今後の大丸有地区、『ON!』について教えてください。

Q13 大丸有地区(大手町・丸の内・有楽町)でお気に入りの場所はどこですか?

Q14 大丸有地区内であつたらいいなと思う施設・イベントは何ですか?

Q15 大丸有地区に期待することはどんなことですか?

Q16 『ON!』の編集方針についてのアドバイスやご意見・ご要望をお願いします。

ご協力ありがとうございました。

なお、お寄せいただきましたアンケートは『ON!』の編集ならびに大丸有地区での施設運営・イベント企画等の目的以外では使用いたしません。

●アンケート回答ハガキ ※該当する番号を○で囲って下さい。

Q1 「大丸有」という言葉を知っていますか?

- ① ②

Q2 年齢 ① ② ③ ④ ⑤

- ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

Q3 性別 ① ②

Q4 職業 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

Q5 勤務地 ① ② ③ ()

Q6 居住地 ① ② ③ ()

Q7 来訪目的 ① ② ③ ④ ⑤ ()

Q8 ページ数 ① ② ③

Q9 発行頻度 ① ② ③

Q10 『ON!』を読んだ経験 ① ② ③

Q11 『ON!』を通じてどのような情報が知りたいですか?(複数回答可)

- ① ② ③ ④ ⑤
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ()

Q12 『ON!』の取得場所

■(ラック)から取得された方

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭
⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲

■上記以外の場所 ()

Q13 ()

Q14 ()

Q15 ()

Q16 ()

切り取り線

料金受取人払郵便

赤坂支店
承認

8549

差出有効期間
平成23年1月
31日まで
(切手不要)

1 0 7 - 8 7 9 0

121

株式会社アイプラネット プロモーション部
大丸有協議会事務局

ON! 編集部 行

東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館

TOPICS

「三井住友銀行本店ビルディング」竣工

旧「JFEビルディング」の建て替え計画による「三井住友銀行本店ビルディング」が今年7月に竣工した。省エネルギー効果とデザイン性を融合させた外装が特徴で、「光ダクト」に加え室内照明の人感センサー制御など環境設備を導入し、CO₂排出量は東京都内のテナントビルの平均より想定で30%減となる。

[概要]

敷地面積: 5,430.03m² 延床面積: 80,047.25m²
階数/高さ: 地下4階・地上23階・塔屋2階/117.1m
用途: 事務所・店舗・ホール

光都東京・LIGHTOPIA2010開催

今年で5回目を迎える「光都東京・LIGHTOPIA(こうととうきょう ライトピア)」が、12月21日(火)より29日(水)まで開催される。エグゼクティブ・アドバイザーに世界的な照明デザイナー石井幹子氏を迎え、<地球・環境・平和>をコンセプトに多様な光の世界を展開。具体的には、優しい明かり絵の世界「アンビエント・キャンドルパーク」、江戸城の名残を留める石垣と水面にうまれる光空間「光のアート・インスタレーション 光流(こうりゅう)」、さまざまな「流れ」を咲き誇る花と光で表現する「フラワーファンタジア」が大丸有地区で展開される予定。



プロフェューズ・照明デザイン 石井幹子(写真は昨年のももの)

発行: 大手町・丸の内・有楽町地区
再開発計画推進協議会〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル635区
TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367
<http://www.lares.dti.ne.jp/~tcc/>*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら
右記までお寄せください。e-mail: tcc@lares.dti.ne.jp

●表紙画像提供: 石黒敬章氏

まち歩き携帯ナビ

あなたと街がケータイでつながる新しい仕組み「東京丸の内ユビキタスミュージアム」。こちらから、街情報をご覧ください。

<http://tokyo-dmy.jp/p/>

「大丸有(だいまるゆう)」とは、大手町の「大」・丸の内の「丸」・有楽町の「有」からとった造語です。

